

中外雑記

真宗

兵庫教区の被災寺院

●**本願寺派** 一月二十一日付本欄で兵庫教区内の兵庫県南部地震被災寺院の状況を、本部災害対策本部の同十九日現在の調べに基づいて掲載したが、その後も被災寺院の数は増加の一途を辿り、同二十七日午前十時三十分現在の集計では次の各寺院が被災していることが新たに判明した

【阪神東組】

▽浄源寺（利國公之住職）＝本堂損壊、庫裡損傷▽安楽寺（加藤亮璋住職）＝本堂傾斜、後堂、庫裡屋根損壊▽称名寺（山田敬進住職）＝灯笼倒壊▽玄德寺（渡邊宏道住職）＝内陣損傷、庫裡半壊▽西教寺（乾恵隆住職）＝本堂半壊、内陣損壊、庫裡屋根損傷▽西善寺（乾一雄住職）＝本堂亀裂、屋根損傷▽法専寺（井上一朗住職）＝本堂傾斜、庫裡一部損壊、書院損傷▽吉祥寺（西村春久住職）＝内陣損傷、山門、鐘楼傾斜、灯笼倒壊▽安養寺（足利孝之住職）＝内陣損傷▽祐光寺（小田周誠住職）＝鐘楼全壊▽圓融寺（秦孝治住職）＝本堂傾斜、壁落下、庫裡亀裂、塀倒壊▽浄宗寺（松蔭興昌住職）＝本堂、庫裡損壊▽浄圓寺（藤園良幸住職）＝内陣損傷、庫裡半壊▽専念寺（藤畑義朗住職）＝本堂屋根損傷

【阪神南組】

▽瑛光寺（英丈夫住職）＝本堂、庫裡屋根一部崩落▽西法寺（岩田隆昭住職）＝本堂半壊、鐘楼全壊▽教専寺（騰瑞夢住職）＝本堂屋根一部損傷▽照蓮寺（杉本勝昭住職）＝内陣損傷、鐘楼傾斜▽明宣寺（藤本法城住職）＝塀倒壊▽長安寺（渡邊■秀住職）＝本堂傾斜、庫裡屋根損傷、山門傾斜▽浄善寺（梅園博道住職）＝本堂屋根損傷、壁亀裂▽法輪寺（野口裕弘住職）＝本堂壁損壊

【阪神西組】

▽報徳寺（光森信貫住職）＝本堂傾斜、庫裡半壊▽万福寺（岩井宏守住職）＝本堂、庫裡半壊、山門全壊▽萬照寺（光森正士住職）＝山門、鐘楼倒壊▽源光寺（釋氏泰雄住職）＝本堂傾斜、内陣損傷▽円徳寺（河原俊亮住職）＝本堂損壊、内陣損傷、灯笼倒壊▽乗誓寺（菅義仙住職）＝山門倒壊▽光明寺（永野一真住職）＝納骨堂仏具損傷▽常宣寺（光森常之住職）＝本堂、庫裡、山門倒壊寸前、鐘楼全壊▽真光寺（楠木正導住職）＝内陣損傷、建物亀裂

【阪神北組】

▽称名寺（小林義廣住職）＝本堂一部損壊▽円行寺（佐々木正史住職）＝灯笼倒壊▽高原寺（村上高信住職）＝本堂、塀一部損壊▽勝福寺（後藤善成住職）＝本堂、太鼓楼損壊、山門半壊、灯笼倒壊▽浄福寺（岩田教證住職）＝本堂、庫裡屋根損壊、内陣損傷、蔵損壊▽常忍寺（葛野公明住職）＝本堂、塀損壊

【神戸東組】

赫光寺（杉本正幸住職）＝本堂壁亀裂▽照楽寺（水無瀬義信住職）＝本堂全壊▽西林寺（藤川正敏住職）＝本堂、庫裡全壊、会館半壊、藤川住職が負傷▽専念寺（佐々木良憲住職）＝本堂内陣損傷、庫裡半壊▽西教寺（三輪一了住職）＝本堂、庫裡半壊、山門倒壊▽圓通寺（存徹乗住職）＝本堂、庫裡全壊▽誠照寺（末永常信住職）＝本堂一部損壊▽光善寺（能仁章夫住職）＝本堂半壊▽光顕寺（松田彰徳住職）＝本堂、庫裡全壊

【神戸中組】

▽信徳寺（市岡瞭演住職）＝本堂損壊、内陣一部損傷▽万法寺（寺田瑞穂住職）＝本堂、庫裡一部損壊▽意傳寺（萩原講教住職）＝山門、塀倒壊▽法専寺（丸橋一清住職）＝本堂屋根損壊▽常念寺（杉田峻磨住職）＝本堂半壊

▽大仙寺（園山俊一住職）＝本堂、庫裡全壊▽真覚寺（鍋島俊樹住職）＝本堂、庫裡一部損壊、山門半壊▽萬法寺（渡邊晃昭住職）＝庫裡一部損壊▽教秀寺（和仁孝章住職）＝本堂、庫裡壁損壊、山門横壁倒壊

【神戸湊組】

▽慶徳寺（川西幸弘住職）＝内陣損傷、壁亀裂▽浄光寺（華廣恵俊住職）＝本堂壁損傷、鐘楼損壊▽報雲寺（仲邑昭雄住職）＝本堂屋根一部損傷、納骨堂一部損壊

【神戸西組】

▽善正寺（増山正史住職）＝本堂、庫裡全壊▽長善寺（平松周章住職）＝本堂、庫裡半壊▽西正寺（建部浄信住職）＝本堂、庫裡一部損壊▽勝光寺（中村康明住職）＝庫裡一部損壊、塀倒壊▽光瑞寺（高坂省爾住職）＝本堂、庫裡倒壊寸前▽善福寺（武宏文住職）＝本堂、庫裡一部損壊▽順照寺（善本義孝住職）＝本堂倒壊、庫裡全壊▽正覚寺（藤本英信住職）＝本堂、庫裡一部損壊▽高松寺（谷川憲正住職）＝本堂、庫裡半壊▽順正寺（山下寛裕住職）＝本堂、庫裡一部損壊▽善通寺（和仁宏章住職）＝庫裡一部損壊、幼稚園（保育園）園舎全壊

【神明組】

▽覚正寺（藤田眞宏住職）＝庫裡屋根損壊▽慈照寺（藤田眞哲住職）＝同▽徳願寺（清原尚之住職）＝内陣一部損傷▽光明寺（松本重信住職）＝本堂一部損傷、庫裡屋根損傷▽西照寺（藤井康亮住職）＝本堂内壁損傷、庫裡一部損傷▽來光寺（赤松静恵住職）＝本堂内壁損傷▽金覚寺（大岡周賢住職）＝本堂壁損傷▽勝明寺（小山貫修住職）＝本堂壁破損▽万宣寺（黒田晃順住職）＝書院壁一部損傷▽万徳寺（廣橋丘登住職）＝本堂屋根損傷、塀半壊▽満福寺（菊池彰真住職）＝本堂屋根傾斜、内陣、庫裡損傷

【淡路組】

▽宣徳寺（藤栄行信住職）＝山門倒壊

【播磨東組】

▽圓福寺（太田道雄住職）＝庫裡壁亀裂、屋根損壊▽正念寺（丸岡徳昭住職）＝庫裡屋根損壊▽西入寺（木南昭隆住職）＝本堂、庫裡半壊▽妙覚寺（森田智住職）＝壁亀裂▽西光寺（西本高信住職）＝塀傾斜

【高砂組】

▽福正寺（藤本隆信住職）＝本堂壁損傷▽西蓮寺（福田慶哉住職）＝同▽教覚寺（別所龍徹住職）＝本堂損傷▽覚正寺（大西信之住職）＝同▽玄長寺（佃雁南住職）＝土塀破損▽善立寺（豊岡智俊住職）＝本堂壁落下▽延寿寺（徳本義淳住職）＝本堂一部損傷、鐘楼門亀裂▽真浄寺（井村智眼住職）＝経堂破損▽明覚寺（藤井善之住職）＝本堂、庫裡一部損傷、土塀損傷▽願正寺（曾根義正住職）＝本堂壁損傷▽西秀寺（暉峻純之住職）＝土塀損傷▽善行寺（網干堅一住職）＝鐘楼損傷

【姫路南組】

▽最勝寺（八木巧住職）＝本堂、庫裡屋根傾斜

【姫路中組】

▽池本史朗住職）＝本堂、庫裡屋根傾斜。

死を覚悟して念仏

●**大谷派** 兵庫県芦屋市の自宅で被災した安居院憲美大谷婦人会前事務局長。幸いけがもなく、滋賀県長浜市の娘宅へ避難し、週末には自坊恩長寺（滋賀県東浅井郡）で法務を勤めているという

▽ものすごい揺れに襲われた時、安居院前事務局長は「ああ、長い人生を送らせてもらった。有り難い」と布団の中で死を覚悟し、思わず念仏がこぼれたそう

▽光輪療術学院（院長＝高橋利枝光徳寺寺族、大阪市中央区）は十一日、神戸市東灘区の被災地へ向かい、無料で東洋医学の手当てを行なう。高橋院長が行なうのは按摩やマッサージ、指圧でもない「脊椎矯正リンパ血液循環療法」いう手技療法。「宗医一者」の精神を掲げて開院し、ダスキンなど大手企業の経営者らに根強いファンが多い。同学院のスタッフらは兵庫県南部地震の惨状を見聞し、「疲弊した心身を少しでもリラックスできれば」と現

地でのボランティアを思い立った。当日は約二十人が午前十時半から市民の避難する西青木公園テント村や福池小学校で肩凝りや腰痛などに苦しむ人たちに療術を施す。

執務長ら被災寺院見舞う

●**東本願寺派** 本山東京本願寺の月田彰英執務長と金子光政渉外室長は一月二十九・三十日、兵庫県南部地震の被災寺院を見舞った。二人はまず、二十九日に比較的被害が大きかった明石市・西林寺（二階堂正純住職）を訪ね、内陣が損壊した本堂や墓石が倒壊した墓地などを視察。その際、二階堂住職は「明石大橋が三年後に開通するが、その時まで完全復興して、ご法主の巡化を仰ぎたい」と復興に向けての決意を力強く語り、執務長らに感激させた。翌三十日は神戸市に入り、大谷派の常順寺（東一影住職、東灘区）と神戸別院（華房嶺磨輪番、兵庫区）へ。大谷光紹法主は青年時代に常順寺の東住職と交流が深く、今回の地震で同寺の安否を深く案じていたという。本堂・山門などは全壊したが、幸い倒壊を免れた庫裏にいた東住職ら寺族に怪我はなく、光紹法主も無事の報を聞いて「命があって何より」とほっと胸をなで下ろしたそうだ。また、東住職と月田執務長は大谷大学時代の同級生で、実に五十年ぶりの再会。二人は「まさかこんな形で再会を果たすとは」と初めは当惑の色を隠せなかったが、今後のことなど三時間近くも話し込んだ。神戸別院では華房輪番が対応、半壊した木造の本堂を指さし「修復は不可能な状態です」と震災の激しさを語った。さらに執務長らは法主が学生時代に起居した大谷家の旧別邸（東灘区）にも立ち寄り、建物の無事を確認した。金子渉外室長は「現地を実際に歩いてみて、直下型地震の恐ろしさをまざまざと感じた」と語った。

神社界

新しい「えびすさん」

●「十七日以降の『えびすさん』は、以前の『えびすさん』ではない」。西宮神社（兵庫県西宮市）の吉井良隆宮司は、兵庫県南部地震で大きな被害を受けた神社復興への決意を、力強く職員に呼びかけた。震災で境内は壊滅的な被害を受け、職員が依るべき社務所も壊滅状態となった。こんな状態の中、吉井宮司は「今回の震災で社頭も大きく変化してしまった。これから新しく復興をしなければならないが、若い人達の力で新しい出発を果たさねばならない」と、職員が一丸となって困難を克服することを呼びかけ、冒頭の言葉で意識改革を促した

▽同神社では、新築した参集殿以外、全ての社殿が被災した。南宮神社などの境内社はほぼ全滅、石造りの大鳥居や絵馬殿、手水舎も完全に潰れた。本殿は一見無事だが、やはり屋根を支える正面の柱がわずかに右に傾き、難しい修理が要求される状態となった。すぐに補強工事に取りかかり、二月初旬には本殿補修のための土台組みが完了した＝写真＝【写真は省略】が、補強完成は十二月中旬になるという

▽倒壊を免れた社務所も使用するのとは不可能となり、八日には建物を完全に壊し、撤去する作業が行なわれた。神社ではテント張りの受付を設置し、仮社務所を設置してなんとか当面を凌ぐ計画。新しい社務所の着工は来年以降になるという

▽また同神社の参集殿は震災後、自然発生的に避難所として地元の人々に使用された。常時約四百人が寝泊まりしていたが、一月中旬に市の施設に全員移った。これは物資の輸送、配給など市側の要請で行なわれたもので、避難者達はお世話になった「えべっさん」に感謝の言葉を残して移っていった。なお、参集殿は二十五日から結婚式の披露宴など、平常の役割を果たす予定。

曹洞

炭俵と七輪で見舞う

●名古屋市万松寺住職伊藤治雄氏（元宗務総長、全日仏理事長）は五日、一日かけて神戸の被災寺院のうち被害の大きいところを中心に慰問した。炭俵と七輪、ほかにベニヤ板やトタン、ノコギリ、カナヅチなどをライトバンに積み込み、宮大工やブリキ職人など工事関係者を伴っての独自の行動で、総勢八人が神戸入り。現地で加藤大真宗議と兵庫県第一宗務所の三輪昌伸宗務所長が同道し、合計四台の車で宝塚市の宝泉寺、神戸市中央区の東福寺、兵庫区の永昌寺、八王寺、長田区の満福寺、東灘区の禅昌寺、向栄寺、垂水区の安養寺などを回った。まず火を起こすことと、応急処置を要する建物の修理のため、火の道具と工事職人を手配したという。三輪所長は見舞金と弔慰金を手渡した。「自坊を朝六時に出発し、帰ってきたのは夜の十一時半だった。国道2号線や23号線は混雑しているが、わき道を走ると割合に空いている」と伊藤氏は話している

▽駒沢女子大学の東隆眞副学長は一月三十・三十一日に神戸に入り、兵庫区の八王寺と北区の妙香寺を見舞った。八王寺は先代の故・志保見道雲和尚が学園の移転事業のために一千万円を寄付しているため、被災と聞いて学園からの見舞金を携えて駆けつけたもの。妙香寺の弊道紀住職は道雲和尚の弟子。駒沢学園は曹洞宗国際ボランティア会の要請に応じて、学生二十人をボランティアとして現地へ派遣することを決め、今月から来月にかけて三グループが神戸入りする。第一班は八日から十五日までの予定で現地へ赴いた

▽「阪神大震災災害現地対策本部」が京都府向日市寺戸町西野二・慶昌院内の近畿管区教化センターに設置された。本部長は雨宮義幸管区長。電話番号は〇七五（九三四）二一一五

▽宗務庁は曹洞宗青年会の地方組織が独自に震災救援のボランティア活動を展開していることから、全国曹洞宗青年会に対し宗門として経済的なバックアップ態勢をとることを決めた。

臨黄

檀徒に“こころ”伝わる

●妙心寺派 兵庫教区住職有志は兵庫県南部地震から一ヵ月目に当たる十七日、神戸市内で震災犠牲者追悼諷経を厳修する。JR鷹取駅前（須磨区）を午後一時にスタートし、長田区内を通過してJR兵庫駅（兵庫区）まで、犠牲者の出た地域を歩き、供養の諷経を行なう。教区各部ごとに世話人を決め、支所長とも連絡を取りながら参加者を募っている。連絡先は明石市二見町・観音寺（神足守正住職）、電話〇七八-九四二-一四八〇。「この月忌は有志でやることになるが、四十九日には教区で対応してもらえれば有り難いのだが」と神足住職は述べている

▽遠諱報恩大接心の参加雲衲数がほぼまとまった。荷担僧堂は本派では全十九僧堂、雲衲は百九十三人。他派からは本派徒弟を中心に八僧堂から五十四人が参加する。震災で伽藍の半ばを損壊した海清寺も参加できるとのこと

▽震災の影響で遠諱大法会団参加者の目減りも懸念される。既に一部で届け出数からの減員連絡も出ているというが、幸いにも交通網の完全復興前の春季は東日本からの団参が多いので、「目立った影響はないのでは」と山本健史管待部長

▽別項記事の通り、国際臨済禅交流協会の新理事長に千坂成也東園寺住職が就任した。前理事長の“存在”が大きかっただけに注目された人事だったが、落ち着くべき所に落ち着いたといえるだろう

▽「三十何年ぶりで草鞋で歩き托鉢したが、檀家さんの気持が伝わって、本当に有り難かった」と語るのは長門義明瑞雲寺住職（京都府八木町）。本山の地震被災者救援募金のため、三日、檀徒の家を網代笠、草鞋で軒並み歩き喜捨を呼びかけた。事前にチラシで連絡していたため、朝早くからわざわざ表通りまで出てきて待っていた老夫婦もおれば、他宗派なのにわざわざ自転車で追いかけて喜捨してくれる人もいた。「詠歌クラブでカンパを集めた寺庭から、和尚は何をやっているんだ。と一晩つるし上げをくった。それなら自分の足で歩こう、と托鉢することにしたが、檀家さんに心が通じて本当に嬉しかった」と。集まった喜捨三十七万四千四百三十二円に本堂に置いてあった献金箱のおかげさま献金三万一千百七円を加え、詠歌クラブのカンパとともに本山の救援募金に繰り入れるという。

天台

厚生制度の見直しを

●**天台宗** 十三日、山田恵諦前座主の一周忌法要が滋賀県大津市坂本の滋賀院門跡で、梅山圓了座主の導師のもと一山式衆によって執り行なわれる。法要後は会場を京都市東山区の都ホテルに移して「偲ぶ集い」が開かれる。遺族の山田能裕氏は、「五百人を超える方から出席のお返事をいただいているが、震災による交通事情の影響で、予定より減るのではないかと思います」と語っていた

▽この度の兵庫県南部地震の救援復興支援を主題とする臨時宗議会が、九日に開かれ、関係議案八件を審議して成立し、閉会した。開会式では、法楽を震災犠牲者追悼の回向を営み、梅山圓了座主導師によって心経に自我偈を上げ、杉谷義純宗務総長、小林隆彰執行、藤光賢議長が焼香し、災害への思いを新たにす

▽天台宗厚生制度・災害補償制度が設けられてから十一年になるが、このたびの兵庫県南部地震の発生によって、制度の運用・補償面などについて見直しが迫られている。見直しについては、三月定期宗会に向けて、既に震災前から内局会議でも試案が提示されていたようだ。時宜に応じた肉付けをするなど、抜本的な規程改定案の策定を急いでいる

▽一月二日に死去した兵庫教区・潮海寺（神戸市西区）の櫛木定映名誉住職の葬儀が一月十九日に予定されていたが、震災で執り行なうことができなくなってしまった。同寺では、一月末まで被災者の避難所として被災者を収容したり、また犠牲者の遺体も安置されている。良幸住職は、同寺が被害も軽微だったことから檀信徒地震被災者の救援に奉仕しており、本葬の日程などはまだ決まっていない。

常楽寺節分会で義援募金

▽常楽寺（半田孝淳住職、長野県上田市別所温泉）では、恒例の節分会が三日に執り行なわれ、半田住職やタレント約三十人が、二千人の参拝者に豆撒きを行なった。午後一時半からの節分会は、半田住職の発声で兵庫県南部地震の犠牲者に黙祷が捧げられて始まった。半田住職は挨拶に立ち、「阪神大震災の犠牲者のご冥福を祈ります。災害から立ち上がろうとしている被災者の方々に、福が訪れますように」と語った。続いて、赤・青・黒の三鬼を先頭にしたお練りが本坊を出発し、観音堂までを練り歩いた。北向観音堂で追儺式が営まれた後、特設の舞台から、「福は内、鬼は外」のかけ声とともに、タレント麻丘めぐみさんや砂川啓介・大山のぶ代夫妻らによって、豆や菓子、サインボールなどがいっせいに投げられた。同日、兵庫県南部地震の救援のための募金箱が準備され、一日で七万九千円が集まり、募金は日本赤十字社に委託された。半田住職は「震災に遭われた人々のことを思うと、いたたまれない気持です。なんとかその気持だけでもと、参拝者の方々にも、募金を呼びかけました」と語っていた。

真言

九州教区で義援金

▽九州教区（長崎県佐世保市上原町五一〇、浄漸寺、久原盛孝教区長）では、兵庫県南部地震（阪神大震災）に義援金として三十万円を贈ることを役員会で決め、十五日に開かれる総会に提案する。九州教区としては、島原・雲仙岳の災害で義援金を戴いており、その温かい心に感謝していた。今回の大震災に、戴いた真心をお返ししたいと、義援金を決めたものである

被災者へ百万円の義援金

●**御室派** 総本山仁和寺では二月に入り、倉信隆源宗務総長と堀川和海総務部長が地元新聞社に出向き、兵庫県南部地震の被災者への義援金百万円を寄託した。「もう少し多くできればよいのですが」と倉信総長▽吉田裕信門跡は二月の半ば頃に兵庫県の被災寺院を見舞いに訪れる予定。吉田門跡は「早く行ってお見舞いをしたいのですが、かえって先方に気を使わせ、迷惑をかけることにもなり複雑な気持ちです」と話している。

姫路の林松寺で追悼法要

●**東寺真言宗** 兵庫県姫路市網干区興浜の林松寺（川崎真雅住職）で四日、開運厄除けなどを祈願する恒例の大柴燈護摩供が営まれ、約千人の檀信徒らで終日賑わった。今回の護摩供には、兵庫県南部地震の犠牲者の追悼の意味も込められ、亡くなった五千二百余人全ての名前を書き込んだ護摩木も焼供された。川崎住職は「檀家さんが手分けをして、犠牲者の名簿をつくり、それを全て寺の過去帳に載せました。ですから、今後も一周忌法要、三周忌法要と、供養を続けていくつもりです」と語った▽砂原秀遍東寺事務長と森泰長東寺総務部長は八日、今回の震災で被災した大本山須磨寺、大本山清澄寺、大本山中山寺の三山を見舞った。

浄土

十五億円の救援計画を

●**浄土宗** 一月十七日発生した兵庫県南部地震は兵庫教区や大阪教区の各寺院に大きな被害をもたらしたが、成田有恒宗務総長は二月八日開かれた総・大本山執事長会の席上、兵庫県南部地震の被災寺院に対する復興救援策について、「三億円を目標に現在、各教区で義援金の募金をお願いしているが、三月七日から開かれる定期宗議会で災害特別互助規程に基づき、特別課金をお願いしたいと考えている」と述べるとともに、「義援金三億円と、共済会の二億円、さらに四年にわたる特別課金十億円を合わせ、十五億円規模の復興救援計画を立て、法案として定期宗議会に諮りたい」との考えを明らかにした。

西宮・西蓮寺で慰霊法要

▽また浄土宗では十八日午後二時から、中村康隆浄土門主の親修により、貴田康住兵庫教区教区長の自坊・西蓮寺で兵庫県南部地震で死亡した犠牲者の慰霊法要を営むことを決めた。また、犠牲者の四十九日にあたる三月六日に、全日本仏教会の呼びかけに応じて、総本山知恩院でも慰霊法要を営むことを決めている。

八日から被災寺院見舞う

▽宗務庁では地震発生後、直ちに災害対策本部を設置し、救援物資や義援金を被災地に届ける一方、各教区に三億円を目標とした義援金の協力を要請するなど積極的に対応。全国浄土宗青年会も独自に被災地自治体に義援金を送るほか、神戸ひよどり葬場などで死亡者への回向を行なうなどのボランティア活動を展開している。また各教区でも義援金の募金活動が行なわれるほか、浄青など宗内の各団体が被災地救援のための托鉢を実施するなど、救援活

動が大きな広がりを見せている

▽こうした救援活動が続けられる中、浄土宗では三日、成田宗務総長、江口定信社会局長が兵庫県の災害対策本部を訪れ、一千万円の義援金を託した。また、宗務庁職員らが尼崎市東光寺に設置された兵庫教区災害対策本部に出向し、救援活動を展開するとともに、八日から三日間、災害救助法の適用されている地域の被災寺院百二十数カ寺を職員らが五班のチームに分かれて一斉に見舞金を持参し、お見舞いに訪れた。お見舞いには坂本建築設計事務所職員らが同行。建築設計の専門家の立場から被災寺院にアドバイスをを行った

▽また、総本山知恩院（中村康隆門跡）でも一月三十日から職員らが連日、ボランティア活動を実施、神戸の葬場での回向を行ったほか、被災寺院の後かたづけの奉仕などに交代で出向いている。知恩院の災害対策本部では六日開いた会議で、今後、宗務庁とは別に、知恩院独自に十万円を基本に見舞金を持参し、被災寺院をお見舞いしたいとしている

▽また、知恩院ではこれまでおてつぎ運動総本部が毎年製作してきた教化映画の製作を今年は見合わせることを決めた。既に脚本が出来上がっていたものの、兵庫県南部地震の被災地に少しでも多くの義援金を送りたいとの配慮から製作の中止を決めたもの。知恩院では製作費の一部を義援金に充てるとしている。

おてつぎ、浄青らが托鉢

▽総本山知恩院のおてつぎ運動総本部（寺本哲榮総本部長）では、一日から五日まで本部職員らが京都市下京区の四条河原町角で兵庫県南部地震被災者救援のための托鉢を行った。職員らは交代で職務の合間をぬって連日午後一時から四時までの三時間、饅頭笠、黒衣に灰色の袈裟を身につけ、街頭にたち、行き交う市民らに救援募金を呼びかけた＝【写真は省略】。托鉢には同総本部職員のほか、信徒らで組織するおてつぎ伝道隊やボーイスカウト、ガールスカウトの少年少女らも参加、八十二万円の義援金が寄せられた。義援金は新聞社など公的機関に寄託し、被災地に届けられる。また知恩院布教師会でも三十万円を義援金として京都新聞社に寄託した

▽京都教区浄土宗青年会（小林浩輝会長）でも、一月二十一日から二月二日までの十三日間、京都市の四条河原町や新京極六角広場など市内の繁華街で救援托鉢を続け、市民から約五十五万円の浄財が寄せられた。このほか浄青メンバーが各組織単位でも托鉢を実施、長岡京市や亀岡市などの各地で市民に救援募金を呼びかけた。京都浄青では、さらに檀信徒らに救援募金を呼びかけるポスターを作成し、募金箱とともに京都教区全寺院に配布し、募金を呼びかけたいとしている。

緊急教区長会議を開催

▽大阪教区教務所（大阪市天王寺区）で二日、兵庫県南部地震の被災地への対策を協議する近畿六教区の緊急教区長会議が開催され、江口定信社会局長をはじめ、教区長全員が出席した＝【写真は省略】。まず、江口局長が要旨次のように挨拶。「近畿ブロックの各教区長さんにはこの度の地震発生後、いち早く対応していただき、大変有り難かった。現在、三億円の義援金を募ろうとお願いしている。これで、被災された寺院と檀信徒にお見舞いができればと思う」

▽次に各教区長から現状報告が行なわれた。まず、自坊・西蓮寺の本堂が全壊し、現在、復旧作業に全力で取り組んでいる貴田康住兵庫教区長が発言。「今回の地震では宗門並びに知恩院からいろいろとご配慮をいただき、また、全国的な規模でご支援をいただき感謝している。再興していくには月日とカネがかかるので、長い目でゆったりとした気持で取り組んでいきたい。なお、二月二十四日に予定していた檀信徒大会は中止とさせていただいた」。引き続き、大友澄諄奈良教区長が次のように述べた。「奈良教区では一千万円の義援金を募ろうと協力をお願いしている。きょうはこのうち、五百万円をもってきた。義援金は一日も早く現地にもっていかねばなら

ない」。次に吉仲良寛滋賀教区長が、「組長会を開き、一カ寺三万円として四百七十五カ寺で千四百万円を目標に集めようとお願ひした」と報告。また、當麻信章京都教区長は、「一カ寺三万円以上として、千五百万円を目標に集めることになった。各寺院には檀信徒にも呼びかけて下さいとお願ひした」と報告。松尾昭道和歌山教区長も、「和歌山教区として、一月二十七日に和歌山駅前募金活動を行なったとき、義援金は浄土宗の寺院だけに使われないうでしょうね、という声があった。義援金を贈る対象が被災寺院と檀信徒だけでなく、一般市民にも贈るべきだという意見が多い」と発言。最後に藤野立恭大阪教区長が報告。「大阪教区として実態調査を行ない、組長からファクス等で報告してもらった。それを受け、一月二十三日に緊急組長会議を開催。一カ寺五万円として、二千万円を目標に集めることになった」。このあと、見舞金の額について審議。この結果、全壊、半壊にかかわらず、一律十万円を被災寺院に贈ることを決めた。

奈良

目標額の一千万円を突破

●**浄土宗** 大友澄諄教区長は二日、大阪教区教務所（大阪市天王寺区）で開かれた近畿六教区の緊急教区長会議に出席した際、兵庫県南部地震の被災寺院への見舞金として義援金五百万円を届けた。奈良教区では一千万円を目標に募金活動を進めてきたが、八日現在で早くも目標額を突破したようだ。大友教区長は「一日も早く義援金が現地に届くようにと、取りあえず五百万円をお届けしました。奈良教区では一丸となって募金にご協力をいただくことができましたので、目標額の一千万円を突破できました」と語っている

▽浄土宗青年会では、兵庫県南部地震の被災者に温かいうどんを食べてもらおうと、現在その準備を進めている。実施日は二十四日、場所は神戸市東灘区を予定している。約五百食の手打ちうどんを準備し、約十人のメンバーが当日の早朝に奈良を出発。本職のうどん店経営者も同行する
